

みみ  
んん

【題字】谷川俊太郎さん



特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター ニュースレター

目次

- P1…… 巻頭言 一人ひとりの強みをつなげて 代表理事 大滝精一
- P2~3 理事合宿報告-せんだい・みやぎNPOセンター 未来会議-
- P4~5 事業報告 NPOの拠点を行政と協働運営
- P6…… トピック 「K-MUSEUM」公開中! / ニュースレターをリニューアル!  
みんみんBooks 『続・蝸牛評伝』 / 『Tagayasu』
- P7…… 事務局日誌・新スタッフ紹介
- P8…… インフォメーション

巻頭言

一人ひとりの強みをつなげて

代表理事 大滝 精一



この7月1日より、せんだい・みやぎNPOセンター(せ・み)は新年度を迎える。この1~2年続いたさまざまな困難をひとつずつ解決し、ようやく新しい方向性が見えてきつつある。

先日、全職員と一部の理事が参加して、高橋由佳理事のファシリテーションのもと、「せ・みの将来を考えるワークショップ」を開催した。まずメンバーの人柄をブロックを用いて表現する作品づくりから始まり、スタッフ各人がもつ強みや特長を列挙しながら、それらをつなぐことで、せ・みの新しい仕事をどのように創造できるかが真剣かつ楽しく話し合われた。

職員は、各人の現場の中でいろいろな発想と提案をもっている。それを現場で埋れさせてしまうのではなく、一人ひとりの強みをつなげていくことによって、もっと楽しくワクワクする仕事につなげることができる。新年度はそんな「せ・みの姿」を目指したい。

# せんだい・みやぎNPOセンター 未来会議

去る4月2日～3日に、せんだい・みやぎNPOセンターの理事が集合し、理事合宿を行いました。理事合宿のテーマは、「せんだい・みやぎNPOセンター 未来会議」。理事、監事、職員で様々な視点から多様な意見を出し合った様子をご紹介します。

## ●原点の確認

理事合宿には、せんだい・みやぎNPOセンター（以下、当センター）の理事7名の他、監事2名と仙台・多賀城の市民活動サポートセンターからセンター長・副センター長が参加。通常の理事会では、限られた時間の中で議事を検討していますが、理事合宿はある程度の時間を取り、じっくり意見を出し合う機会としています。新たに就任した理事もいるので、まず、参加者それぞれの当センターとの出会いや関わりを共有しました。各自がどのようなきっかけで現在の役職についているのか、どのような動機づけがあったのか、普段知っているようで知らないお互いの背景を知ることができました。

その後、2008年に発行した設立10周年記念誌を参照しながら、当センターのこれまでを振り返り、原点を確認しました。今から20年近く前の設立当初は、NPOという言葉もまだ世間一般に知られていると言える状況ではありませんでした。当時の市民活動団体・NPOは、何もかも手探りの中、課題を見つめ、解決法を持ち、リソースを集めることが必要でした。だからこそ、自らが見本となって組織を運営し、支援を行う中間支援組織が必要とされていました。まだまだ市民活動団体・NPOの情報が少ない中で、情報の収集・発信を行い、NPO同士の勉強会を開催したり、企業への働きかけをしたり、市民活動団体・NPOとマスコミとの懸け橋になってきました。2002年から始まったせんだいCARESは、様々な企業や行政を巻き込み、市民活動を世間に伝えていく画期的な試みでした。



理事合宿で議論を重ねる理事ら

## ●現在の非営利セクター

「現在の非営利セクターを取り巻く状況は20年前と大きく変わっている」というのが、合宿参加者の共通した認識でした。社会の課題解決に取り組むのは、市民活動団体・NPOに限ったことではなく、一般社団法人、ソーシャルビジネス、企業による取り組みなど、多様な主体が積極的に関わっています。「市民活動団体・NPOも、力をつけて、ガバナンスを整備している」との声もありました。「20年前とは異なり、多くの課題が明確化され、解決方法もすでに明らかになっていることが多く、NPO同士、時には異なるセクターも入り混じって、競合が生じているのではないか」という危惧も挙げられました。

このような状況下で、今、当センターに求められているのは、様々な課題解決のため、プラットフォームとして多様な主体を巻き込んで社会を切り拓いていく力なのではないか、ということが話し合われました。

## ●未来へ向けて

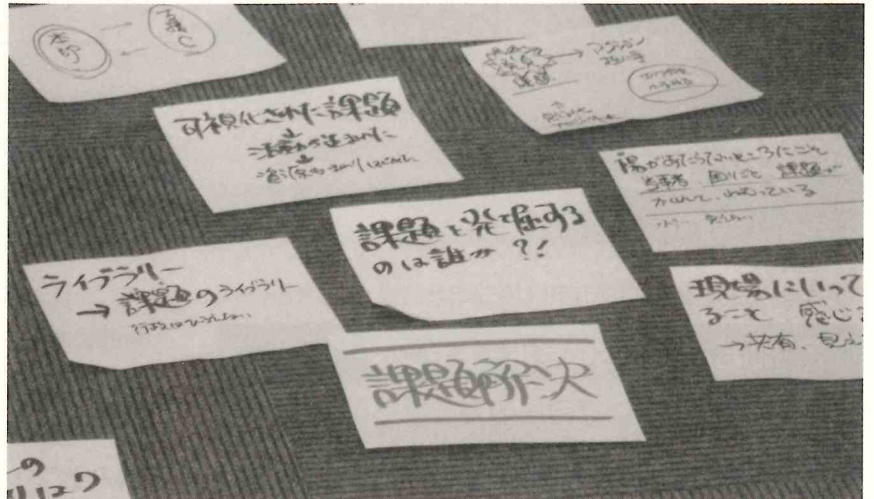
原点を確認したところで、次に、これから何を目指していくのかの議論を行いました。前述のように、当センターの設立当初と現在では、社会状況も、中間支援組織に求められている役割も変わってきています。設立当初は、当センターが市民活動団体・NPOに関する情報の収集・発信を担ってききましたが、現在、特に2011年の東日本大震災以降、行政が積極的に復興の担い手の情報収集に奔走しています。

情報の収集・発信に限らず、時代の移り変わりとともに、当センターが作ったシステムを行政や他の団体等に移していくことが必要だという意見があがりました。まだ社会にないけれども必要なものを考え、創り、試行することが、当センターが設立当初から目指してきたものです。企業の経営を市民活動団体・NPOにつなぐサポート資源提供システムや、社会的起業家のインキュベーションシステムであるフラスコおおまちがあげられますが、これから何を創りだし、

普及させていくかを考えていかなければならないのではないだろうかという意見です。

先の議論では、多くの課題が明確化され、解決方法もすでに明らかになっている一方でそれは、既存のシステムで何とかなり過ぎている、もしくは何とかしようとし過ぎているのではないか。中間支援組織が、「社会にはこんな課題がありますよ」と示すことは、市民から「考え、行動する力」を奪っていることになっていないだろうかという危惧があげられました。課題を発見するのは誰か、本当に多くの課題が明確化されているのかを見極めていかなければなりません。まだ陽が当たっていないところに、当事者・受益者がいることを、忘れてはいけません。当事者や、まだ組織になっていない人たちの声に耳を傾け、すでに何らかの行動を起こしている人たちに対しても、「何か新しいことをやっていますか？」と声をかけることで、積極的に活動の芽を拾い、育てていく努力をしなければなりません。そうして集めた課題のライブラリーについて、考える場・話し合う場を設けていくことが、これからの市民社会を豊かにしていくことにつながるのではないかと話されました。

そして、何もかもを当センターが単独で取り組むのではなく、専門に特化している組織、得意としている組織と組み、一緒に行動をしていくことを確認しました。



議論のキーワード

課題の多様化と、組織の多様化に対応するためには、個別の団体一つひとつに対する支援よりも、課題を解決するために様々な組織・人々を巻き込んだプロジェクトを支援していく。その支援にあたっては、単独で行うのではなく、様々な組織と組んで実施していく。一対一から多対多の支援の必要があるだろうという意見が出ました。

何よりも、当センター自体の組織体制を整え、ガバナンスを強化し、成果のアウトカムを出していくことが必要という認識が共有されました。

今回は、理事や職員が組織の現状と今後について、どのように向き合っているかをお伝えしたく、合宿で交わされた議論の一部を紹介させていただきました。これからさらに議論を重ね、9月の総会で、会員の皆さまに、これからの当センターについてご報告する予定です。

(太田 貴)

## 全職員参加ワークショップも開催しました

5月25日に、せんだい・みやぎNPOセンターの全職員が参集。職員の見地から、当センターと社会・地域における中間支援組織としての役割や、周囲とのつながりを理解し合いました。そして、それぞれが担当している事業や市民・NPOとの関わりの中で感じていることを共有し合いました。このワークショップには理事も一部参加。職員の見地や感性を組織運営の力に変えていきます。



全職員参加ワークショップの様子

# 事業報告

## NPOの拠点を行政と協働運営

せんだい・みやぎNPOセンターでは、仙台市と多賀城市の市民活動サポートセンターの施設運営と、岩沼市、柴田町の施設運営支援を行っています。施設ごとに2015年度の成果と、2016年度の展開を報告します。

### 仙台市民活動サポートセンター

#### 3つのエンジンで市民の力をまちの力に

2015年度は、仙台市民活動サポートセンターの新たな指定管理期間の初年度でした。また、年度途中の7月に運営の根拠となる条例が「仙台市協働によるまちづくりの推進に関する条例」に改正され、それに基づく基本方針も新たに策定されました。

5年間の事業運営方針として「3つのエンジンで市民の力を育み、都市の力へとつなぐ」を掲げています。NPOなどのテーマ型コミュニティの自立・連携・創発を推進する3つのエンジンを構築し、かつ他機関との協力関係をもとに、多様な主体の協働によるまちづくりを推進します。

昨年度は、施設の基本的な役割を果たしつつ、施設運営や事業実施を通じて、担当課である市民協働推進課とも協働を重ねながら、2016年度以降の基盤形成を行いました。機関紙の紙面変更、高頻度のWEB更新、パンフレット改訂、9事業30回以上の事業実施、地域機関との連携による人材交流の活発化など、今後につながる成果や手ごかりを得ることができました。

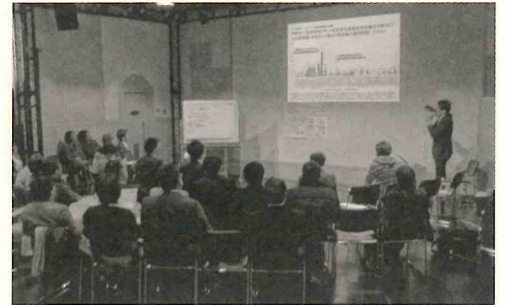
今年度は、事業運営方針の3つのエンジンの考え方を柱に、市民活動と協働によるまちづくりの推進に取り組み、施設運営の質を高めていきます。108万都市のサポートセンターとしては、市民力の裾野を緩やかに拡大しながら、社会変革を目指す組織の支援を担う必要があります。事業の方向性も、地域機関等との連携や市民活動者の支援を通して地域の課題解決に取り組むだけでなく、協働によるまちづくりが進んだ先にどんな未来があるかなど、調査研究や多様な主体との対話からビジョンを市民に提示できる施設となることが重要と考えています。(菅野 祥子)

#### イチオシ事業 .....

##### ◎「マチノワ・ラボせんだい」 今年度本格始動!

マチノワ・ラボは、市民一人ひとりの知恵や経験を持ち寄り、仙台におけるこれからの地域づくりや社会づくりを考え、実践の準備をするための広場です。2016年3月に1回目を

開催しました。今後、まちづくり事例の紹介や、サポートセンターが5年計画で取り組んでいる調査研究の報告等をテーマに、継続して開催する予定です。



#### ◎ぱれっと



仙台のまちをワクワクさせてくれる人、協働によるまちづくりの事例、「私もちよっと良いことしたい」と思った時にヒントになる情報…。学生記者や市民ライターの目線も取り入れながらお伝えしています。バックナンバーは公式ホームページにてダウンロードできます。

### 多賀城市市民活動サポートセンター

#### 個人の想いを地域課題につなげる

2015年度は、①地域づくり実践の場の提供と②地域課題の深掘りと地域連携の促進の2点を運営方針として掲げました。

①では、「防災」「子育て」「居場所」といったテーマごとに交流や学びの場を設けることで、共通の関心事や課題意識を持つ方向士がつながり、新たな取り組みが3つ生まれました。また、「何かはじめたい」という方を対象に地域づくり実践塾を開講。想いの整理や実践事例に触れることで、すでに3名が想いを実現させています。このように、想いや関心事に対してはたらきかけ、地域人材の発掘・育成を行ないました。

②では、複数の町内会が連携して地域づくりを進めるサポートをしました。地域のさまざまな立場の人が話し合える場をつくり、新たな人材発掘ができました。NPOが比較的少ない多賀城では、町内会のような地縁組織を課題解決の担い手として支援していく必要があります。

今年3月に多賀城市市立図書館がリニューアルし、新たなまちづくりの核として期待されています。まちが変化していく中で、多賀城市市民活動サポートセンターがどんな役割を担うのか改めて考える時期となっています。そこで、今年度はこれまで以上に「地域課題」に着目し、「課題解決型活動の創出」「地域課題の可視化・発信」を運営方針として掲げました。町内会へのヒアリングや行政・NPO等が持つデータを通して課題を明確にし、発信することで市民の課題意識を育てるとともに、個人の想いや関心事を地域課題につなげ、課題解決の取り組みを生み出します。 (櫛田 洋一)

**イチオシ事業** .....

◎TAGAJO Future Labo 7月スタート!

「何かしたい」という想いを叶える全5回の地域づくり実践塾。ワークシートでの想いの整理、実践事例の視察、意見交換、プラン作成、発表会を経て、実現に向かって進んでいきます。また、活動のノウハウを学べるプログラムも予定しています。



◎tag(たっぐ)



多賀城で活躍する人や団体の紹介、多賀城で活かそう取り組み、多賀城の地域課題などを多賀城市民に向けてお送りするフリーペーパー。バックナンバーは、公式ホームページにてダウンロードできます。

**岩沼市市民活動サポートセンター**

**団体をつなぐ役割を強化!**

2012年12月より、岩沼市市民活動サポートセンターの運営支援として、月1回活動相談会への相談員派遣と、運営ミーティングでのアドバイス、市民向け講座を行っています。

岩沼市では、2015年に岩沼市市民活動助成金を創設しました。岩沼市内で活動する市民活動団体や町内会等に、1団体最大10万円を助成する制度です(1団体1回限り)。活動相談会には、助成金申請のための相談が多く寄せられました。始まったばかりの制度ですが、初年度は市民活動団体や町内会、商店振興会など5団体が助成金を獲得。市内の清掃活動やイルミネーションによるまちづくりなどに活用されました。

2015年度の運営ミーティングでは、岩沼市市民活動サポートセンターの強み・弱みなどを整理し、強みである団体同士をつなぐ役割について機能のPRと成果の報告を強化していくことが決まりました。岩沼市市民活動サポートセンターは、貸室を持たず、相談、情報の受発信、印刷サービスが機能の中心となっています。2016年度は、これから地域のために何か活動を始めようというシニア向けの講座を強化し、新たな利用者の獲得を目指します。 (太田 貴)

**柴田町まちづくり推進センター**

**人材育成がまちづくりのカギ**

柴田町が運営するまちづくり推進センター(通称「ゆる。ぷら」)でも、2015年度から、人材育成を中心とした運営支援を行っています。ゆる。ぷらのスタッフに対するアドバイスや、相談支援の他、2016年度からは地域のまちづくり人材を育成する事業として「まちプロ」をスタートさせました。「まちプロ」では、柴田のまちづくりや地域の課題解決に興味がある人を対象に、企画作成のワークショップおよび、まちづくりのフィールドワークを通して人材育成を行います。年間10回以上のプログラムの中身は、アイデアの整理や実行のためのワークショップだけでなく、協働やNPO、ファシリテーションについての座学も用意し、1年間かけてまちづくりを実践するための総合的な力づけを行います。

ゆる。ぷらは、郊外型ショッピングセンターの一区画という好立地もあり、人口3万8千人の町で、年間約1万人の来館者がある施設です。この集客力を活かし、まちづくりの視点を持った人材をいかに育成していくかが、今後の課題でもあります。市民の発想を取り入れながら、豊かな人材の育成に挑みます。 (太田 貴)

## 加藤哲夫氏デジタルアーカイブサイト 「K-MUSEUM」公開中!

せんだい・みやぎNPOセンターの創始者加藤哲夫さんの残した1500点の資料をアーカイブし、閲覧できるWEBサイトを開設しました。収集・整理作業は、2014年から日本財団の助成を得て2年半程かけて行われました。この間、加藤さんの資料を用いたワークショップを全国で開催し、これからの市民社会やNPOについて議論を深めました。

サイトを開くと、加藤さんのトレードマークの「かたつむり」が案内役を務めてくれます。手書きポスターや講義・講演資料、メモ、イラストなどが収められていて、描かれている独特の文字や図形から加藤ワールドが感じられます。



K-MUSEUM <http://minmin/org/kto>

## ニューズレターをリニューアル!



ニューズレター「みみん」は、装いも新たに季刊発行となります。お馴染みの谷川俊太郎さんの題字「みみん」はそのままに誌面を刷新しました。発行は、年4回(7月、10月、1月、4月)となりますが、これまで以上に、当センターの動きや事業報告などを分かりやすくお届けいたします。理事の方々が、リレーで執筆する巻頭言もご期待ください。

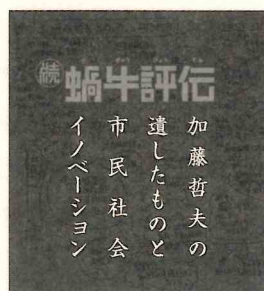
リニューアル最初の今号は、各施設の広報スタッフが集まり力を合わせ編集しました。今後とも引き続きご覧いただき、ご意見ご感想などをお寄せいただけると励みになります。

## みんみんBooks NPO・市民活動に役立つ書籍・冊子をご紹介します

### 続・蝸牛評伝

加藤哲夫の遺したものと  
市民社会イノベーション

編集 K-PROJECT  
編集委員会2015  
発行 特定非営利活動法人  
せんだい・みやぎNPOセンター  
発行日 2016年5月31日

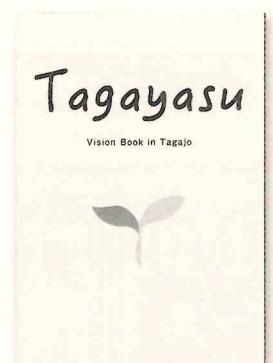


2014年に刊行した『蝸牛評伝』の続編です。加藤哲夫さんの足跡を訪ねて、岡山、京都、東京と巡回した「K-プロジェクト・アーカイブキャラバン」の集成版。東京と京都で開催したシンポジウムの様子、加藤さんとゆかりのある5人のインタビューと、全国に蒔いたタネが育っている過程を垣間見ることができます。東日本大震災後の復興まちづくり、さらには市民社会の未来の指針となる一冊に仕上がっています。

### Tagayasu

Vision Book in Tagajo

編集 特定非営利活動法人  
せんだい・みやぎNPOセンター  
発行 多賀城市  
発行日 2016年3月



『Tagayasu』は、多賀城に暮らす人たち、特に若者たちの「好き」や「やってみたい」を応援するために、2015年度の1年間を通して展開してきたプロジェクトです。多賀城の人たちが、地域で活躍する人々と出会い語り合った様子、全国から招いた先進的な活動に取り組むゲストのメッセージが記されています。読む人の心を刺激し、「できることを、やってみよう!」と一歩踏み出すための行動促進本です。

# 事務局日誌 (2016年4月～6月)

## ●4月

- 2日 - 3日 ・理事会宿
- 3日 ・第211回理事会開催
- 15日 ・仙台市市民活動サポートセンター  
仙台市市民局様来館対応
- 16日 ・公益法人・NPO等特別委員会出席
- 19日 ・柴田町「まちプロ」説明会出席
- 19日 - 20日 ・熊本地震現地訪問
- 26日 ・NPO法人シーズ・市民活動を支える制度を  
つくる会による認定取得のための組織診断・  
認定取得のための勉強会開催



・柴田町まちづくり推進センター定例ミーティング出席  
・事務局拡大会議

## ●5月

- 6日 ・岩沼市市民活動サポートセンター運営支援業務
- 9日 ・臨時事務局拡大会議
- 10日 ・第212回理事会開催
- 12日 ・柴田町まちづくり推進課様来訪  
・花王様来訪
- 14日 ・多賀城市市民活動サポートセンター  
事務用ブース入居審査会出席
- 17日 ・仙台市市民協働事業提案制度説明会出席
- 18日 ・名取市市民活動支援センター情報交換会出席  
・名取市市民活動支援センター活動相談会
- 20日 ・仙台市市民協働事業提案制度説明会出席
- 24日 ・ふくしまNPOネットワークセンター様来訪  
・山形の公益活動を応援する会・アミル様来訪
- 25日 ・せんだい・みやぎNPOセンター センター会議
- 26日 ・日本政策金融公庫様来訪
- 30日 ・仙台市環境審議会出席  
・NPO法人日本NPOセンター総会出席
- 31日 ・柴田町まちづくり推進センター  
定例ミーティング出席

- 31日 ・みやぎNPOプラザ評議会出席  
・事務局拡大会議

## ●6月

- 1日 ・岩沼市市民活動サポートセンター  
なかま交流サロン出席
- 2日 ・荒浜まちづくり協議会 打合せ
- 3日 ・デンソー様来訪  
・岩沼市市民活動サポートセンター 運営支援業務
- 4日 ・全労済地域貢献助成事業審査会
- 5日 ・デンソー女子陸上長距離部  
「三連覇達成感謝の会」出席
- 8日 ・せんだい・みやぎNPOセンター第30回評議員会



- 9日 ・宮城県地域包括ケア推進協議会総会出席  
・NPO法人会計基準協議会総会出席
- 10日 ・宮城県地域支え合い生活推進連絡会議出席
- 11日 ・まち・むすび助成金第1期事業報告・情報交換会開催
- 15日 ・第213回理事会開催
- 28日 ・事務局拡大会議
- 30日 ・宮城県内NPO支援センター情報交換会出席

## 新スタッフ紹介

### 鳴原 麻里奈(しぎはら まりな)

勤務先: 仙台市市民活動サポートセンター

初めまして、鳴原麻里奈です。

カンボジアとキャンドル作りが大好きな大学4年生です。5月下旬から仙台市市民活動サポートセンターで非常勤職員として働いています。元々は利用者でしたが、市民活動やそれを支える仕事に魅力を感じて応募させて頂きました。仙台にこんなに多種多様な団体や人々がいることに毎日ワクワクしながらお仕事しています。

これから、利用者の方一人ひとりと信頼関係を持つために頑張ります!

## サポート・ご協力 ありがとうございます

(2016年4月11日～6月10日)

### ■企業・団体協力 (敬称略)

富士ゼロックス宮城(株)…カラーコピー機を社会貢献価格にて

## ご寄付ありがとうございます

### ■企業・団体協力 (敬称略)

(2016年4月11日～6月10日)

(株)日専連ライフサービス…207,527円

## 第18回 通常総会のお知らせ

**日時:**2016年9月4日(日)

**会場:**仙台市市民活動サポートセンター  
6Fセミナーホール

昨年度の総会から1年。この間2回の臨時総会を開催してきました。これまで会員の皆さまから頂いたご意見を整理し、2015年度事業報告と収支報告、2016年度事業計画案と予算案を会員の皆さまへお諮り致します。

日程は左記の予定です。会員の皆さまへは郵送にて資料をお届けいたします。今しばらくお待ちください。

## 熊本支援チャリティーコンサート開催

**日時:**2016年8月21日(日)

**13:00～20:00**

**会場:**太白区文化センター 楽楽楽ホール

熊本地震により熊本県内の被災された方々、特に障がいのある方、そしてその家族の皆さまの1日も早い復興を祈り、宮城県を中心に活躍する多くのアーティストのご協力でチャリティーコンサートを開催します。

**主催:**熊本支援チャリティーコンサート実行委員会

**共催:**スペシャルオリンピックス日本・宮城、

アート・インクルージョン、ほつぷの森、復興の詩プロジェクト

**協力:**せんだい・みやぎNPOセンター、

パーソナルサポートセンター、わらしべ舎、

ワンファミリー仙台、麦の会、ふうどばんく東北AGAIN、

みやぎ連携復興センター、はぴかむ、

とっておきの音楽祭SENDAI、

音楽の力による復興センター・東北

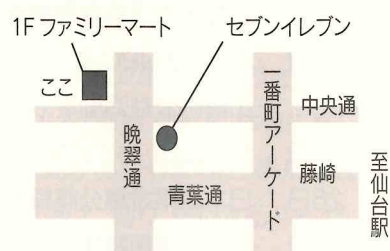
### 連絡先

特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター  
〒980-0804 仙台市青葉区大町2-6-27 岡元ビル7F  
TEL: 022-264-1281 FAX: 022-264-1209  
E-mail: minmin@minmin.org HP: <http://www.minmin.org/>

### 発行: 特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター

代表理事: 大滝精一 編集部: せ・み広報チーム

発行日: 2016年7月7日 デザイン: 氏家朗



岡元ビル7F 仙台駅から徒歩 20～25分